



企業の担当者から説明を聞く学生＝つくば市吾妻

筑波学院大

# 授業で「社会経験」

## 受け入れ団体が説明会

学生に社会参加の経験を積ませる授業「オファ・キャンパス・プログラム（ＯＣＰ）」を展開する筑波学院大は、このほど、ＯＣＰで学生を受け入れる協力団体による合同説明会をつくば市吾妻の同大で開いた。学生約１２０人が参加し、各団体の担当者から説明を受けた。

今年で１１年目を迎えるＯＣＰは２年生の必修科目。学生は受け入れ先で約３０時間以上の社会活動を実践する決まりで、どんな活動を行うかを説明会で情報収集した。後日、希望する団体を大学側に申請し、面談を通して受け入れ先が決定する。説明会には環境保全のＮＰＯ法人やまちづくり団体、企業、スポーツクラブなど過去最多となる４１団体が参加し、学生たちは熱心に受け入れ先を吟味していた。

学生の一人、大森悠世さん（１９）は「人と関わり合うのが好きなので、イベントを開く団体を希望したい」と話した。

活動終了後は報告会

を開く予定で、同大の担当者は「社会と積極的に関わる能力以外に、学生たちにはプレゼンテーション能力の向上も期待したい」と述べた。（今橋憲正）